

**卓話**

社会保険料を減らすことは可能か 北村佳文様



我が国の社会保障給付費は毎年約 2 兆円ずつ増加しています。社会保障給付費の 2014 年度予算ベースを見ると給付費総額は約 115 兆円。14 年前の 2000 年の同給付費は約 78 兆円、更に 10 年さかのぼった 1990 年では約 47 兆円しかないのと比較すると、わずか 20 年で 2 倍以上に給付費が膨れ上がっていることがわかります。

それに伴い、社会保険料負担も増加の一途となっています。社会保険料は毎年の社会保障給付費に合わせて変更（増減）する健康保険料・介護保険料と、毎年増加することが決まっている厚生年金保険料があります。いずれも前記の社会保障給付費の増大に合わせて増額することとなっており、少子化による現役世代の減少がそれに追い打ちをかけることで、ますます社会保険料の負担が増す傾向にあります。10 年前と現在の社会保険料率は、6%以上差あり、倍率にしてみると約 1.3 倍にもなります。

社会保険料の増加は直接的に人件費増加につながります。企業における「人件費」は給与のほかにも社会保険料や研修費その他福利厚生費等がありますが、給与や福利厚生費等はなんとかコントロールできても、社会保険料は国が決めたルール（法律）に基づいて徴収されるため、その削減等については方法がないと思われるのが一般的かと思われます。

しかしながら、実際にはさまざまな社会保険料の削減方法が存在します。一般的に使われるのは、昇給時期の調整や入社時・退社時の時期の調整、借上げ社宅等の現物給付の活用等です。

保険料の削減効果は年間一人あたり数万円から数十万円にもなる可能性があり、社員数が多くなると企業業績に与えるインパクトは決して小さくないこととなります。特に、ここ 20 年間の景気低迷および社会保険料上昇は、企業の利益を侵食しているかもしれません。

そこで、最近（でもありませんが）よく出回っているのが「社会保険料適正化」なるサービス業です。「適正化」というのは、単に「保険料安くしますよ」という意味で使われています。そこで「適正化」を指南する業者（社労士もいます。）は保険料が安くなった分の 10~20%程度をコンサルタントフィーとして受取り、適正化のコンサル業を行っています。

では、社会保険料の適正化（削減）には「デメリット」は無いのでしょうか？社会保険料の節減にはデメリットが確実に存在します。健康保険給付の減少、年金の減少、税金の増加等。メリット、デメリットを合わせると、「結局何もしないのと同じだった」ということになる可能性もあります。

社会保険料の負担に関することは経営者として、また被保険者として、国民として考えなければなりません。しかし、目先の利益に囚われて安易に社会保険料削減を行ってしまうと、長期的には損をするか又は後悔する結果になることも有り得ます。

社会保険料削減を計画する際は、メリットとデメリットを総合考慮して検討し実行するのが賢明でしょう。

●出席委員会報告 **出席率向上にご協力を！**

出席報告	第 2 7 2 8 例会	9.10 訂正
会員数	3 8 (33) 人	3 8 (33) 人
出席数	2 0 (18) 人	2 7 (25) 人
出席率	5 7. 1 4 %	7 7. 1 4 %

●今後の予定

10/15 (水)	職場訪問 (南日本新聞社)
10/22 (水)	第 5 回クラブ協議会 (地区大会報告)
10/29 (水)	職業奉仕賞授賞式

市内ロータリークラブのプログラム ★印は例会場ないし例会時間変更

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	10/9(木)	★職場訪問	山形屋	東南	10/14(火)	米山奨学生卓話	サンロイヤル
北		★職場訪問 (オートパーツ伊地知)	レプラント鹿児島	城西		★職場訪問 (自衛隊)	東急イン
サザン		会員卓話 赤尾会員、坪井会員	東急イン	西	10/15(水)	★クラブ定款休会	山形屋
鹿児島	10/10(金)	外部卓話 県警本部長池田様	山形屋	西南		クラブフォーラム	ゆうづき
中央	10/13(月)	祝日休会	山形屋				